

# Sharing Nature Training and Retreat Week

May 3 - 8, 2009

## 報告と感想

首藤 順子

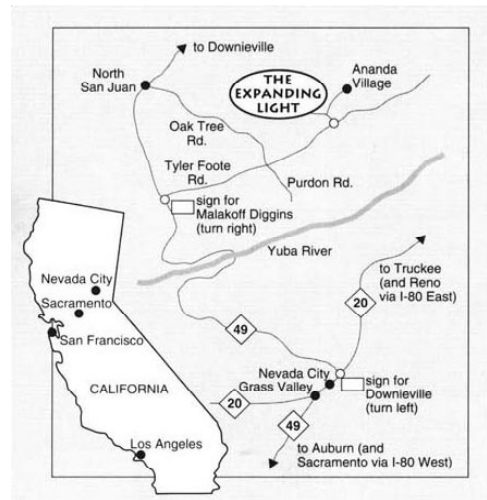
まず今回、アナンダ村でSharing Natureの30周年記念のイベントとし行われるトレーニングと国際会議に参加することができたことに対し、創始者ジョセフ・コーネル氏と奥様のアナンディさん、それから、日本ネイチャーゲームの降旗慎一さんに、心から感謝をしたいと思います。これまで地方のリーダーにとっては遠い存在であったアナンダ村と、ジョセフ・コーネル氏に直接会って体験してきたことを、ぜひ多くの仲間達と分かち合わなければならないと強く感じたすばらしい経験でしたのでここに報告したいと思います。

## アナンダ村とExpanding Lightについて

アナンダ村は、サンフランシスコから車で4時間くらいのネバダ市の近くにあるコミュニティーです。

アナンダ村に住む人々は、ヨガやメディテーションによって静かに自分を見つめ自然と調和した暮らしを求める考えに賛同している人たちですが、コミュニティーの中にはお酒と麻薬は、持ち込み禁止ですし、共同作業の日などがあり、平和で清潔な印象を受けました。住人は、自活していることが条件ですので、村から、外へ仕事に行く人もいますしこの施設で働いている人もいます。村には、小学校から高校まであります。大学もあると聞きましたが、小規模です。

この滞在型の施設では、食事は、オーガニックの野菜中心です。自然体験（Sharing Nature）のワークショップや、サイクリング、料理教室、ヨガやメディテーションのワークショップや、研修が定期的に行われているようです。Expanding Lightには宿泊棟やキャンプサイトもあり、好に合わせて宿泊できます。周りはネイチャーゲームがいろいろやれそうなフィールドばかりです。豊かな自然環境と、清潔な施設、親切なスタッフのなかで、静かに自分を見つめ、平穏と健康を取り戻せるようなところでした。





毎朝 6:30 からメディテーションとヨガがあり自由参加です。私も 6 日参加しましたが、外の空気の中で静かに時間を過ごすのも心地よいと感じたので、後半はそうしていました。野外では、鹿、スカンク、カモ、ペリカンを見ました。夜には、マウンテンライオンや、キツネ、クマなどもくるそうです。環境に配慮する意識は高く、バスルームの石けんや、ランドリーの洗剤、町のマーケットの商品も安全なものでした。

村の中には、またクリスタルハーミテージと呼ばれる美しい庭の邸宅があり、スワミさんの自宅でもあるそうですが、イベントや会議などに使われています。ちょうど華の美しい時期でまるで楽園にいるようでした。



運営については、プログラムがスムーズに進むように、また参加者が心地よく集中できるように、アナンディさんの準備がいつもすばらしく感動しました。食事、施設運営以外は、アナンディさんと、Sharing Natureの事務的仕事をこなしてくれている若きホープ、グレッグが、この5日間の運営面の準備をしていましたが、とてもゆったりしていて、全体の会の雰囲気を自然で穏やかなものにしていました。参加者が、時間に追われるか感じがなく 実際にはスケジュールがしっかり決まっていて、進行しているのだけれど) みんなの自主的な協力を引き出しつつ進行していました。だからみんなとても仲良くなります。

このように、ワークショップ全体の雰囲気を、穏やかに行うことは、ネイチャーゲームの本質的な自然との調和とか優しさを、肌で感じることであり、とても大切なことだと思いました。ネイチャーゲームは自然に優しいことを学ぶことでもあるのに、スタッフが大声を上げたり、パタパタしていたり、愚痴ったり、人や自然への配慮が欠けているようでは、残念なことだと思います。私たちも、一つ一つの行動を見直しみんなでよい会の運営に努めなければいけないと思いました。



## Sharing Nature Activity について。

ジョセフ・コーネルさんは、私たちの会の創始者で、おそれおおい人と思っていましたが、丸顔にほっぺが赤く、冗談ばかり言っは、ウシシと笑う本当に気さくなおじさんという感じでした。

そして穏やかな話し方で、自然体験をする前の心を、ゆるやかに溶かすように語りかけます。時々心がどこかに飛んで行くかのように、軽く話します。



" Owls and Crows "



ネイチャーゲームで大切なフローリングの考え方は、参加者の心をしぜんに、集中させ、深い気づきへと導くものです。今回、コーネルさんの話の中にフローリングのことがよく語られ、またプログラムも 4 つの段階の活動をしながらだんだんと深められていきました。

私たちは、参加者に自然を感じてもらうことが目的であり、楽しんでその場限りでハイさよならということではあり得ません。コーネルさんが、このことをリーダーに大切にしてほしいと思っていることが伝わってきました。もちろん、リーダーにも個性がありますので、その個性は大切だと思います。それぞれが、何が目標かということをいつも意識して、心を落ちつけ、参加者のようすをよく見るのが大事だと思います。

### 1 日目

All Day Workshop

- \* Noses
- \* Ocean Animal Clue
- \* Owls and Crows
- \* Interviews with Nature

Lunch

- \* Noah's Ark
- \* Journey to the Heart of Nature
- \* Write Your Own Quotation
- \* Trail of Beauty      \* The Bird of the Air



“ Build A Tree ”



「わかちあい」

## 2 日目

### \* How Close

### Forest Flow Learning Experience

### \* Build a Tree

### \* Tree Imagery

### Sharing Nature with Children Session

( 4 グループをコーディネーターが指導する。 )

### \* Bat and Moth

### \* Sound Map

### \* Natural Processes

### \* Unnature Trail

### \* Meet a Tree

カントリーコーディネーターのリーダーによるネイチャーゲームではおもしろい体験をしました。国によって、すこしやり方が違うということです。ブラジルでは、「コウモリとガ」では、どちらも目隠しをするようですし、「私の木」では、めかくしをしたらぐるぐる回すようです。すこしゲーム的なのでしょうか。ふと、ガも目が見えないんだったかなと新学説にとまどいました。韓国のチャンさんの通訳をして、カモフラージュをしましたが、近くにたくさんのボイズンオークがあることに気づかず、現地の情報不足は、大きな問題だと感じました。しかし、原語の違いを乗り越えてトライした今回の経験は、本当に私にとっては大きな自信になりました。

## River Walk ~ Yuba River



3 日目は、天気が回復したのでユバ川で River walk。 私たち外国人にとっては頭の痛い長い長い文章を読みながら散策する[Vibrant Peace Walk]は、もう途中でギブアップしました。



また、文章を書くというゲームもありました。たとえば、「自然へのインタビュー」とか新しい「ジョン・ミューア ゲーム」など。ペアでやるものはわかちあいの時間が楽しみになります。「ジョン・ミューア ゲーム」は、何かの対象物と、自分との対話なので、思わぬ発見がありとても楽しめました。

参加者の中に、人々から忌み嫌われているポイズンオークという植物を観察した方が、興奮して自分の書いた文章を読んできたのが印象的でした。まるで子どもにかえたような興奮ぶりでした。私もこのゲームは自然の中の一つのものを深く観察し、それと自分との関係の中で新たな発見や気づきがありそこに愛情が生まれるような気がして、自然への理解と共に、自分の心への気づきもあるいいゲームだと思いました。ちなみに私は、コケと傾いた老木の物語を書きました。

「I am the Mountain」というゲームは二人ペアのゲームです。これは後の人が前の人に「わたしは・・・」と言うと前の人が「木です。」とか「鳥です」とかいいます。何度か同じような問いかけをしたり「わたしのなりたいものは・・・」とか「わたしの大切なものは・・・」とか問われると意外と深く、人生や生き方の決意まで相手に話すような覚悟が必要でした。「魔法の黒い鍋」的な。だから、私たちは、ここまで参加者を導くためには、フローラーニングの正しいやり方と、環境づくりを時間をかけて行う必要があると感じました。同じ時間を、同じ場所で体験して、気持ちを分かち合う。まさに Sharing Nature の神髄です。



各国のゲームと活動の紹介で印象に残ったのは、一つはスウェーデンの「ケアテイツグ ウオーク」というアクティビティーです。一人一人が前の人と後ろの人との感覚をほぼ維持しながら散歩するというもので、とてもシンプルですが、想像してみますと、人と人との優しい関係が見えてきます。

もう一つは、日本で生まれた「自然の紋」や「森の美術館」です。後者は額縁とポストイット、えんぴつを用意するだけで、インストラクションもわかりやすく、自由に絵を見て歩く感覚で、絵となる景色と、おもしろい題名を多くの参加者が気に入ってくれました

。



参加者の中には、自然や、環境教育のために各国でいろんな活動をしている方がたくさんいました。その中に、ロッククライマーでクライミングをしながらダンスをするパフォーマンスをする人が違いました。映像をみて大自然とダンスのコラボに魅了されてしまいました。またベンジャミンさんの創作した「I love the Mountain」という歌にも感動しました。ダーダさんの平和を希求する絵本も美しかった。みんなそれぞれの国や立場で、

いろんな方法で、地球を愛していることを表現していました。そして、最後にクロージングのアクティビティーは、「魔法の黒い鍋」と「自分への手紙」このクロージングは完璧です。

最後の最後になって、時分への手紙を書きながら、自分がここにいることの意味と感謝の気持ちが一気にわいてきました。

こんなにすばらしいアナンダにいても、さっきまで忘れていたふるさとのことが強く思い出され、黄色い稲穂の景色、農作業をしているであろう家族、友達、緑の山々、そして自分の姿がくっきりと大分の大地にあることを確信しました。



Sharing Nature とは、自分も、自然の一部であることを知り自然を知るように、本当の自分に出会うことだと思いました。私は、今回のこのすばらしいチャンスにであえて本当にラッキーでしたが、使命を与えられたのだと思います。本当の Sharing Nature はどんなものなのか知りたいという気持ちでこれからもリーダーとして謙虚に頑張りたいと思います。



Joy of the Nature

Thanks and Forgiveness

Love and Peace

Hello and Good-Bye